

10月7日は舞鶴引き揚げの日

語り部に聞いた「この一枚」

10月7日は「舞鶴引き揚げの日」。引き揚げやシベリア抑留の史実と引揚者を温かく迎えたまちの歴史を次世代へ継承し、平和への意識高揚を目指すため、市民認知度100%を目指しています。今回は、引揚記念館で語り部として活動するNPO法人舞鶴引揚語り会の皆さんに印象に残る写真や絵にまつわる話を伺いました。

10月7日は引揚船が舞鶴港に初めて入港した日

昭和20年10月7日は舞鶴港に引揚船の第一船である「雲仙丸」が釜山港（韓国）から入港した日です。昭和33年9月7日まで約66万人と1万6千余の遺骨を迎え入れました。当時の舞鶴港は日本に18ある引揚港の一つでしたが、ほかの引揚港が閉鎖し、昭和25年からは舞鶴のみが引揚者を迎える港でした。私も幼少期に海軍機関学校の教官だった父に連れられ、引揚者を迎えるための旗振りに平棧橋に行きました。ここで親子が抱き合い、歓喜する様子は今でも覚えていて、語り部をするときに記憶としてお話することもあります。

岸壁の妻・母

愛する夫や子に絶対に帰ってきてほしい、元気に戻ってきてほしいという思いで引揚船が入港するたびに舞鶴へ来られた妻や母の姿は「岸壁の妻・母」と呼ばれるようになりました。帰りを待つ間も家族や生活を守るために、今ほど女性の労働環境がない中で働き、それでも再会できなかった人たちの思いは量り知れません。舞鶴に移住して待つ人もいて大浦中（現在の若浦中）の用務員をしながら港

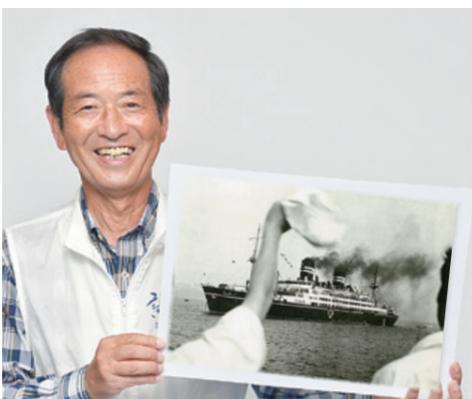
ユネスコ世界記憶遺産

ユネスコ世界記憶遺産登録のため、市民の皆さんからたくさんの署名をいただきました。署名活動は語り部の会としても何か記憶遺産登録へのお手伝いがしたいという思いからスタートしていて、街頭での声掛けや自治連合会へお願いにも出



▲山田さん

10月7日は引き揚げの日。今の平和があることに感謝し、シベリア抑留や引揚者を市民が心から迎えた史実を忘れず、これらが次の世代にも語り継いでいくことが大切だと思います。



▲宮本さん



▲矢野さん

へ足を運ぶ人もいたそうです。そのため岸壁では再会を喜び抱き合う人たちがたくさん見かけられたのだと思います。

向き、約5万の署名が集まりました。登録決定の瞬間はうれしかったですね。国際的な機関から認められることで資料を提供してくれた人たちの思いも次の世代へ伝えやすくなりました。

修学旅行生など学生同士の交流

平成28年に初めて中学生が語り部養成講座を受講しました。今では25人の中学・高校生が活動中です。東京や横浜、大阪からの修学旅行生と同世代で交流がありました。語り部になってくれる学生は学んだ知識を自分の言葉で伝えるため、修学旅行生と同じ目線で話が

シベリア抑留

戦後、ソ連軍の武装解除を受けた人たちが「東京へ帰してやる」と言われて連れて行かれたのがシベリア抑留でした。戦後の復旧・復興のための人手が足りなかつたソ連（現在のロシア）で重労働を強制されたそうです。10年ほど前までは、シベリア抑留体験者から話を聞く機会もあり、当時の引揚者への世間の風当たりが冷たかったことや抑留者という後ろめたさなど心の傷まで話してくださることもありました。抑留と一口にいっても個人によって労働の差があったようです。戦後から時間が経ち、もう戦争を体験した世代は少なくなっていますが、抑留な

温かみのある引揚港

引き揚げ時には「苦勞様でした」と声をかける市民の姿もありました。おもてなしの始まりは、引揚者の身なりを見かねて服などをあげた個人の行動だったそうです。それが広がり、田端ハナさんをはじめとする婦人会の助け合いの活動につながったと言います。戦後は自分も貧しかったのに、お茶やふかしイモを振る舞うなどのおもてなしをしたことは同じ舞鶴市民として、世代を超えて誇らしいです。引揚者から「当時桜の枝をいただいたことをずっと覚えている」と聞い

シベリアから渡ってきた「クロ」

クロと呼ばれるシベリアから渡ってきた犬の紙芝居があります。クロはシベリアでは収容所内の倉庫の火事を見つけたり、抑留者たちが休憩中に楽しんだ野球のボール拾いをしたりとなっていました。抑留者たちを追って引揚船に向かった。抑留者たちを追って引揚船に向かった。抑留者たちが休憩中に楽しんだ野球のボール拾いをしたりとなっていました。芝居を読むたびに感情移入してしまいます。抑留という物語は学生の皆さんに話すときは暗くなりがちですが、クロの話は明るく話せるので重宝しています。



▲谷口さん

でき、私たちよりも距離が近く説明できているように思います。福知山から通って語り部になった学生もいて、福知山市内で語り部活動をされています。夏休みには館内の学生語り部による案内が定着してほしいですね。



▲松田さん（左）と福田さん（右）

ど戦争の史実は語り継がなければなりません。

たことがあり、自分たちのできる範囲のことをした当時の人たちの心遣いを感じることができ、うれしかったです。



▲山本さん



▲木戸さん（左）と柴田さん（右）

引揚記念館の催し

- ◆企画展「子どもたちのお出迎え」
- 【日時】10月24日(日)まで
- ◆10月7日は舞鶴引き揚げの日イベント
- ◆平和の鐘を鳴らすこと 10月7日(日)9時〜16時
- ◆《セレモニー》10月7日14時20分から折り鶴アートの完成披露などのセレモニーを実施。
- ◆平和祈念式典
- 【日時】10月10日(日)14時から
- 【場所】引揚記念公園
- 【内容】黙とう、献茶、献花、平和へのメッセージなど
- ▼詳しくは、引揚記念館(☎08・088800)